2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月13日

上 場 会 社 名	林兼産業株式会社	上場取引所	東
コ ー ド 番 号	2286	URL	https://www.hayashikane.co.jp/
代　　表　　者	（役職名） 代表取締役社長	（氏名）	中部　哲二
問合せ先責任者	（役職名） 経営管理本部総務部長	（氏名）	熊澤　英俊　　(TEL) 083-266-0210
半期報告書提出予定日	2026年11月13日	配当支払開始予定日	―

決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	23,357	4.4	△23	―	104	△89.2	319	△56.6
2026年３月期中間期	22,369	△9.4	787	298.2	969	164.2	735	204.8

（注）包括利益　2027年３月期中間期　261百万円(△70.5%)　　2026年３月期中間期　887百万円(410.1%)

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	39.08	―
2026年３月期中間期	87.49	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	32,932	13,501	41.0
2026年３月期	28,236	13,568	48.1

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　13,501百万円　　2026年３月期　13,568百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	―	―	43.00	43.00
2027年３月期	―	―			
2027年３月期(予想)			―	45.00	45.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通　期	48,500	6.4	1,000	△24.1	1,200	△28.3	1,200	△5.9	146.49

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更　：無

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	8,910,000株	2026年３月期	8,910,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	718,279株	2026年３月期	743,759株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	8,173,517株	2026年３月期中間期	8,411,117株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の背景等については、添付資料３ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 ……P. ２
（１）当中間期の経営成績の概況 ……P. ２
（２）当中間期の財政状態の概況 ……P. ３
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……P. ３
２．中間連結財務諸表及び主な注記 ……P. ４
（１）中間連結貸借対照表 ……P. ４
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 ……P. ６
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 ……P. ８
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 ……P. 10
（継続企業の前提に関する注記）……P. 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）……P. 10
（セグメント情報等）……P. 10

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間のわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果などにより、景気は緩やかな回復が続いております。しかしながら、食品業界におきましては、賃上げを背景に個人消費には改善が見られるものの、不安定な中東情勢や円安の影響による原材料価格およびエネルギーコストの高止まりなど、依然として先行き不透明な経営環境が続きました。

このような状況のなか、当社グループでは2026年４月からの「中期経営計画Challenge2028」（2027年３月期～2028年３月期）を策定いたしました。これまでの財務健全化を経て、資本コストをより強く意識した経営へシフトし、事業ポートフォリオの「選択と集中」を通じて、「株主還元の強化」「収益性（ROIC）向上」「人的資本投資強化」の３つの重点戦略を推進し、中長期的な企業価値向上につなげてまいります。

当中間連結会計期間の売上高は、養魚用飼料の販売数量増加などにより233億57百万円（前年同期比4.4%増加）となりました。損益面におきましては、配合飼料の原材料価格高騰による利益率の悪化等により、営業損失は23百万円（前年同期は７億87百万円の営業利益）、経常利益は１億４百万円（前年同期比89.2%減少）、親会社株主に帰属する中間純利益は３億19百万円（前年同期比56.6%減少）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

①食品事業

機能性素材におきましては、エラスチンの国内向け販売数量が増加したことにより、増収となりました。

加工食品におきましては、収益性を重視した取引に努め、販売数量が減少したことなどにより、減収となりました。

肉類におきましては、消費者の節約志向や豚肉相場の下落基調を受け、販売単価・販売数量が伸びず、減収となりました。

これらにより、売上高は103億１百万円（前年同期比5.3%減少）となりました。損益面におきましては、「霧島黒豚」の農場肥育成績が堅調に推移したことにより、セグメント利益（営業利益）は４億８百万円（前年同期比54.1%増加）となりました。

②飼料事業

配合飼料におきましては、養魚用飼料および畜産用飼料の販売数量増加や原材料価格高騰による価格改定などにより、増収となりました。

水産物におきましては、取り扱い量が増加したことなどにより、増収となりました。

これらにより、売上高は130億53百万円（前年同期比13.6%増加）となりました。損益面におきましては、配合飼料の原材料価格高騰による利益率の悪化等により、セグメント利益（営業利益）は１億24百万円（前年同期比88.4%減少）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における資産合計は329億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ46億95百万円増加しました。流動資産の増加（前連結会計年度末比47億86百万円増加）は、主に売掛金が31億99百万円、原材料及び貯蔵品が６億５百万円、商品及び製品が４億６百万円増加したことなどによるものであり、固定資産の減少（前連結会計年度末比90百万円減少）は、主に投資有価証券が２億８百万円減少したことなどによるものです。

当中間連結会計期間末における負債合計は194億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ47億62百万円増加しました。流動負債の増加（前連結会計年度末比37億９百万円増加）は、主にその他に含まれる未払金が３億45百万円減少したものの、短期借入金が27億93百万円、買掛金が13億59百万円増加したことなどによるものであり、固定負債の増加（前連結会計年度末比10億53百万円増加）は、主に長期借入金が11億23百万円増加したことなどによるものです。

当中間連結会計期間末における純資産合計は135億１百万円となり、前連結会計年度末に比べ66百万円減少しました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益を３億19百万円計上したものの、配当金の支払いによる利益剰余金の減少が３億51百万円あったことなどによるものです。この結果、自己資本比率は41.0％となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フローが増加したものの、営業活動によるキャッシュ・フローの減少により、前連結会計年度末に比べ３億６百万円減少の16億45百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動による資金の減少は37億76百万円（前年同期は25億８百万円の減少）となりました。これは主に売上債権の増加額が33億56百万円あったことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動による資金の増加は92百万円（前年同期は１億70百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が３億21百万円あったものの、投資有価証券の売却による収入が５億４百万円あったことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動による資金の増加は33億76百万円（前年同期は13億69百万円の増加）となりました。これは主に配当金の支払額が３億48百万円、長期借入金の返済による支出が３億41百万円あったものの、短期借入金の純増加額が24億59百万円、長期借入による収入が17億99百万円あったことなどによるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

国際情勢を背景とした原材料価格やエネルギーコストの高騰、為替相場リスクなど、当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続くと考えられます。

こうしたなか、当社グループの当中間連結会計期間の業績は、原材料価格高騰による利益率の悪化等により損益面では減益基調で推移したものの、コスト高の影響は業績予想に織り込み済であり、価格改定等の取り組みも当初計画に沿って進めております。今後も価格改定や収益性重視の製品アイテム集約などにより利益率の改善を見込んでいることから、2026年５月15日に発表した通期の業績予想に修正はありません。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,961	1,655
受取手形	17	―
電子記録債権	52	146
売掛金	5,518	8,718
商品及び製品	1,970	2,377
仕掛品	2,234	2,116
原材料及び貯蔵品	2,479	3,084
その他	647	1,571
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	14,880	19,667
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,514	2,464
土地	1,800	1,800
その他(純額)	2,646	2,579
有形固定資産合計	6,961	6,845
無形固定資産	534	731
投資その他の資産		
投資有価証券	5,362	5,153
その他	1,484	1,520
貸倒引当金	△986	△985
投資その他の資産合計	5,860	5,688
固定資産合計	13,355	13,265
資産合計	28,236	32,932
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,547	3,906
短期借入金	4,774	7,567
未払法人税等	137	89
賞与引当金	182	261
その他	2,191	1,717
流動負債合計	9,832	13,542
固定負債		
長期借入金	1,457	2,581
退職給付に係る負債	1,669	1,628
その他	1,707	1,678
固定負債合計	4,835	5,888
負債合計	14,668	19,431

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,415	3,415
資本剰余金	3	9
利益剰余金	8,316	8,284
自己株式	△449	△434
株主資本合計	11,284	11,275
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,117	2,082
繰延ヘッジ損益	5	△0
退職給付に係る調整累計額	160	144
その他の包括利益累計額合計	2,283	2,226
純資産合計	13,568	13,501
負債純資産合計	28,236	32,932

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	22,369	23,357
売上原価	19,277	21,041
売上総利益	3,092	2,316
販売費及び一般管理費	2,304	2,340
営業利益又は営業損失（△）	787	△23
営業外収益		
受取配当金	71	89
その他	169	113
営業外収益合計	241	202
営業外費用		
支払利息	49	64
その他	9	9
営業外費用合計	59	74
経常利益	969	104
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	87	329
特別利益合計	87	329
特別損失		
固定資産除却損	2	1
特別損失合計	2	1
税金等調整前中間純利益	1,055	432
法人税、住民税及び事業税	255	40
法人税等調整額	64	72
法人税等合計	319	113
中間純利益	735	319
親会社株主に帰属する中間純利益	735	319

中間連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	735	319
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	145	△27
繰延ヘッジ損益	2	△5
退職給付に係る調整額	0	△16
持分法適用会社に対する持分相当額	4	△7
その他の包括利益合計	151	△57
中間包括利益	887	261
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	887	261

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,055	432
減価償却費	428	410
のれん償却額	12	12
持分法による投資損益（△は益）	△35	△23
固定資産売却損益（△は益）	△0	△0
固定資産除却損	2	1
株式報酬費用	5	8
投資有価証券売却損益（△は益）	△87	△329
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△7	△0
賞与引当金の増減額（△は減少）	83	78
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	15	△65
受取利息及び受取配当金	△73	△91
支払利息	49	64
為替差損益（△は益）	△1	△1
売上債権の増減額（△は増加）	△3,293	△3,356
棚卸資産の増減額（△は増加）	△782	△894
仕入債務の増減額（△は減少）	644	929
未払金の増減額（△は減少）	△533	△362
未収消費税等の増減額（△は増加）	423	△34
未収入金の増減額（△は増加）	△6	△422
未払消費税等の増減額（△は減少）	5	△6
その他	△1	△55
小計	△2,099	△3,705
利息及び配当金の受取額	84	102
利息の支払額	△53	△79
法人税等の支払額	△440	△92
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,508	△3,776
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△200	△321
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	△102	△70
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	144	504
その他	△11	△18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△170	92

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	2,200	2,459
長期借入れによる収入	150	1,799
長期借入金の返済による支出	△369	△341
リース債務の返済による支出	△184	△192
配当金の支払額	△210	△348
自己株式の取得による支出	△214	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,369	3,376
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,308	△306
現金及び現金同等物の期首残高	3,146	1,951
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,838	1,645

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

Ⅰ　前中間連結会計期間(自　2025年４月１日　至　2025年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注）	合計
	食品事業	飼料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,880	11,486	22,367	2	22,369
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	742	742	―	742
計	10,881	12,229	23,110	2	23,112
セグメント利益又は損失(△)	265	1,067	1,332	△1	1,330

（注）　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない不動産事業です。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	1,332
「その他」の区分の損失(△)	△1
セグメント間取引消去	24
全社費用(注)	△567
中間連結損益計算書の営業利益	787

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

Ⅱ　当中間連結会計期間(自　2026年４月１日　至　2026年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他（注）	合計
	食品事業	飼料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,301	13,053	23,354	2	23,357
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	848	849	―	849
計	10,301	13,901	24,203	2	24,206
セグメント利益	408	124	532	1	534

（注）　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない不動産事業です。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	532
「その他」の区分の利益	1
セグメント間取引消去	△3
全社費用(注)	△554
中間連結損益計算書の営業損失	△23

（注）　全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。